

Teacher(s)	大豆生田・山下	Subject group and discipline	古典探究	Program	MYP / Global / STEM / Liberal Arts
Unit title	「語る・伝える」を問い直す	MOIS Year	5	Unit duration(terms)	16hrs (8Terms)

INQUIRY: Establishing the purpose of the inquiry

Learner Profile ・ 学習者像		
思いやりのある人・心を開く人		
Key concept ・ 重要概念	Related concept(s) ・ 関連概念	Global context ・ グローバルな文脈
変化	言葉の選択・目的	個人的表現と文化的表現
Statement of inquiry ・ 探究テーマ		
テキストは、語り手・書き手が様々な見方に基づいた言葉や設定を選択し、語られる／伝えられる		
ROK ・ TOK Connections		Knowledge Questions ・ 知識に関する問い
「語る」「伝える」は、語り手・書き手の主観的要素によって左右される。 書き手・語り手の言葉選び・見方の差異によって、様々に表現される。		歴史学者の説明は、主観的であることを免れないのか。 自らの文化的文脈に影響されるのは避けられないのか。
Inquiry questions ・ 探究の問い（代表的なものを記載）		
<u>Factual ・ 事実的問い:</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「伝える」「語る」とは何か。 ・ 作品に描かれていること(出来事・概要・心情表現)は何か。 		
<u>Conceptual ・ 概念的問い:</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「伝える」「語る」の差異は何をもって生じるのか。 ・ 事実を述べた文章、歴史書、虚構を描く作品のそれぞれの境界線は何に見出せるのか？ 		
<u>Debatable 議論的問い:</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「物語る」とは何か。 		

Objectives・目標	Summative assessment・総括的評価課題	
<p>【知識・技能】 言葉の働きや決まり、特徴や役割、表現の技法、文章の種類や特徴について理解している。</p> <p>情景の豊かさや心情の機微を表す語句や、自分の思いや考えを多彩に表現するための語句の量を増し、理解したうえで、それらを適切に用いている。</p> <p>【思考・判断・表現】 テキストの構造及び内容について、分析・解釈・評価している。</p> <p>ねらい・目的・受け手に応じた構成や表現を用いてテキストを作成している。</p> <p>テキストの内容や解釈をふまえ、自らのものの見方や感じ方・アイデアについて、探究したり批判的に振り返ったりしている。</p>	<p>GRASPS Statement</p> <p>・あなたの通う公立高校は、もうすぐ期末考査です。「古典探究」のテスト範囲は教科書に載っている「鴻門之会」です。そんな時にあなたは、「古典の魅力」について『史記』を題材に議論するシンポジウムが開かれることを知りました。それをきっかけに一生懸命勉強に励むことを知りました。テストを受けて力試しをしてください。</p> <p>・あなたは、現代の古典教育に関心を持つ高校生です。近年、古典文学への関心が薄れつつあることに課題意識を持ち、『鴻門之会』を題材にした「古典文学をこう読むシンポジウム」が開かれることとなり、登壇者として臨むことになりました。このシンポジウムでは、古典を学ぶ高校生という立場から作品の魅力や読み方について議論を行います。以下のような準備を行ったうえで、当日のシンポジウムに臨んでください。</p> <p>【留意点】①各セッションは15分間で実施する。②最初に、1分間で「あなたの考える史記」という作品の解釈を述べる時間をとる。そこである程度、作品の理解度を評価する。(K i・ii)③事前準備カードで話したい話題を書くこと。当日までにリストアップして共有される。それもふまえながら議論を行うこと。(T i・iii/T ii)④司会進行役は別途設定して行うので、登壇者は発表に専念すること。</p> <p>Goal・目的 古典の価値を知る・古典の理解を深める</p> <p>Role・役割 中等5年生</p> <p>Audience・相手 同じ立場の人たち</p> <p>Situation・状況 高校生に向けて</p> <p>Product/performance・成果物 シンポジウム・ペーパーテスト</p> <p>Standard・スタンダード 知識・技能／思考・判断・表現</p>	<p>Connection between the summative assessment and the statement of inquiry 総括的評価課題と探究テーマとのつながり</p> <p>歴史物語・史伝を題材として扱い、どのように「語るのか」「伝えるのか」を考える。書き手・語り手の裁量によって、作品での重大な局面や場面を強調したり、焦点化したりすることで、「歴史を物語る」ことが成り立っていること、ひいては、そもそも「語る」「伝える」ことがそのような側面を有しているかを Unit を通して実感させたい。</p> <p>総括的評価課題では、その「語る・伝える」の性質に目をつけ、「あなたが感じる鴻門之会の価値・面白さ」を効果的に伝えるようなものを設定した。現代社会での「伝えること」の弊害である歪曲された事実や脚色が過度に伝播されてしまうような実情を打破するためには、受容する側の適切な知識や理解も求められる。そこで、今回は生徒に筆記試験のなかで、作品理解度を測る。そのうえで、「伝える」行動を実践し、「どうすれば効果的に伝えることができるのか」の土台となる知識についての定着度もはかりたい。</p>
Approaches to learning (ATL)	ATL と「主体的に学習に取り組む態度」の評価とのつながり	
<p>【転移スキル】 さまざまなものの見方を身に着けるために探究における文脈を変更する</p>	<p>【第三次／第四次】 授業時の取り組みの際に、活用する ATL スキル</p>	
<p>【整理整頓スキル】 個人的な目標や学問的目標を達成するために方法を計画し行動する</p> <p>【協働スキル】 対立に対処し、問題を解決して、チームで協働する</p>	<p>【第二次での実践】 授業時の取り組み状況(グループワーク)・振り返り・蓄積するノート</p>	

ACTION: Teaching and learning through inquiry

Content Term または、小単元	Learning process		
	Learning experiences and teaching strategies 学習活動と指導のアプローチ	Formative assessment 形成的評価	Differentiation 個別最適化
第一次／① 導入	<ul style="list-style-type: none"> 語られ方・伝え方の差異に目を向ける Unit の流れを確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ●ワークシートでの記述／全体共有ツールでの共時的な共有 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口に膾炙した例を示す
第二次／② 『史記』を読み深める	<ul style="list-style-type: none"> 内容・概要を理解する 書き下し文・現代語訳を作成する 出来事と感情表現等に分けて作品内容を整理する 	<ul style="list-style-type: none"> ●ワークシートでの情報蓄積 	<ul style="list-style-type: none"> ● 補助資料を活用する ● 左記の手順で、段階的な理解を促す
第三次／② ・十八史略の考察 ・「鴻門之会」教科書風記述にまとめる ・項羽と劉邦に関する記述を見て、「物語ること」について要素を整理する	<p>【STEP1】「十八史略」との比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「十八史略」における省略の背景・理由・詳細を探る <p>【STEP2】「鴻門之会」の出来事を教科書風を書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象が事実だけが一通りまとまっているものを読み浮かべさせて、「教科書」を想起させる。 ・前回のワークシートの「出来事」を抽出して、時系列的にまとめる。 ・実際に作成したものを共有する。 <p>【STEP3】項羽と劉邦に関する記述を一瞥したうえで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新書の一節、教科書の記述などを読み比べて、その差異について改めて考える ・史記という作品の背景について示す。 ・「物語ること」の要素・本質を省略されたものから逆算して考え、まとめる。 ・探究テーマの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ●あるなしを探させるようにする ●日常との関連もふまえて思考 ●資料の読み比べ、ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第二次のワークシートの記述・振り返りを参照させながら、取り組ませる ● 机間指導のなかで、グループワークでの進捗管理・確認を適宜、行う
第四次／④ 総括的評価課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 古典をこう読むシンポジウム(準備①／実施②) ● 筆記試験 		<ul style="list-style-type: none"> ● 授業で得た視点・気づきを応用して内容を整理する
Resources			
『史記』『鴻門之会』『十八史略』『世界史探究』(実教出版)、「世界の歴史② 中華文明の誕生」(中公文庫)、『中国の歴史と社会』中国学校教科書			

REFLECTION: Considering the planning, process and impact of the inquiry

Prior to teaching the unit (指導前)	During teaching (指導中)	After teaching the unit (指導後)
----------------------------------	-----------------------	-------------------------------

<p>前 Unit では、重要概念「美しさ」というレンズを通して『源氏物語』を読み解いた。これにより「単に古文を読むのではなく、概念を通して読むことでそのおもしろさと意義が見いだせた気がした」といった声が生徒から聞かれるなど、学習への主体的な関わりが育まれつつあることがうかがえる。こうした学習者の実態と視点を踏まえ、本 Unit では平安文学よりもさらに馴染みの薄い『史記』「鴻門之会」を題材に、「語る」「伝える」とはどのような行為なのかという観点から読み深めることを試みる。これにより生徒の漢文学習への関心と理解を深め、学習意識の向上を図ることを目的とする。</p>	<p>書き下し文、現代語訳の作成に熱心に取り組む姿勢が見られる。 歴史書を「物語」として描く、読む、ということに疑問を抱きながら新たな発見を得ようとしている。</p>	
---	---	--